

東北地方太平洋沖地震被災地支援活動の記録

派遣職員 石原基弘

所属 農林課

1 派遣期間
平成23年 8月11日 ~ 平成23年 8月20日
2 派遣先及び主な活動場所
岩手県上閉伊郡大槌町 大槌町物資拠点
3 支援活動の内容及び活動の状況
支援物資の受入・搬出事務 大槌町班の事務 総合案内 町民窓口 義援金事務 選挙事務支援 拠点縮小へ向けた、物資の整理・仕分け
4 活動を通じて感じたこと
<p>被災地が求めている物資と、全国各地から送られてくる物資とでは、ニーズが合わない物も少なからずある。難しいとは思いますが、被災自治体からの物資ニーズの情報発信、物資供給側の情報収集という部分を今後考えていく必要がある。</p> <p>また、例えば衣類はサイズ毎に梱包する、食品は箱に消費期限を記しておく、等、物資供給側の一手間によって物資拠点運営の事務量を減らすことができる。</p> <p>お盆時期のせい、県外の方が物資拠点を訪れることもそれなりに多く、仮設住宅の場所を聞かれたときは、現地の詳細な地理がわからず、困ることもあった。</p>
5 支援活動から見た被災状況など
<p>震災から5ヶ月が経過し、町中心部の瓦礫撤去は進みつつあるが、店舗の復旧を含め、町全体の都市計画が見えてくるには、もう少し時間がかかりそうな印象を受けた。</p> <p>信号や街灯、路面の舗装も、津波被害のあった地域はほとんど復旧していない。テレビ越しや新聞報道ではわからないことも非常に多かった。</p> <p>周辺の釜石市や山田町、大船度市や陸前高田市も見る機会があったが、沿岸部はどの自治体も壊滅状態であった。</p> <p>仮設住宅の建設地は山間に集中しており、町役場の仮庁舎やコンビニ等から非常に遠く不便であったり、仮設住宅団地内のコミュニティが十分な機能を見せていない等、新たな課題が山積している状況。</p> <p>震災で負った心の傷を癒せず、中々前向きに考えられない、という住民の方も少なからずいるため、心のケアについても継続的な支援が必要だと思われる。</p> <p>一方で、町の職員の明るさ、前向きさに助けられた10日間でもあった。</p> <p>県の職員の方、他の市町の職員の方と、被災地の復興支援について協力、意見交換できたことは非常に大きな経験になった。</p> <p>今回初めて被災地を訪れ、継続的な支援はまだ必要だと痛感した。</p> <p>今後は、個人的な活動の中で引き続き支援をしていくと同時に、今回実体験として得た物を、周囲の人に伝えていきたいと思う。</p>

